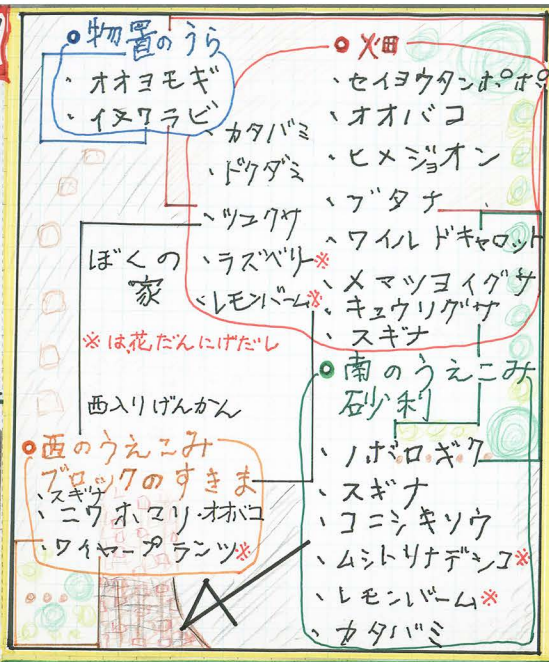
花のまち 恵庭 ざっ草新聞

2023年8月
和光小4年
島知弘

ざっ草の強さの秘密

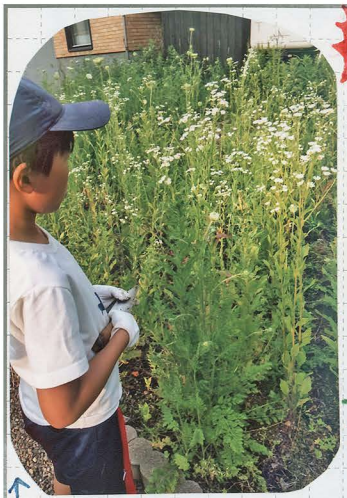
ぼくの住む恵庭市は、ガーデニングがさかんで、昨年は、全国都市緑化北海道フェアが開いされた。ぼくの家の花だんや庭にも、きれいな花を植えている。しかし、勝手に生えてくるざっ草をひくのが大変だ。そこで、抜いても次々生えてくる、ざっ草の強さのひみつを調査した。

ぼくの家のざっ草



高く伸びる!

畑など肥えた土に生えたざっ草は、他の植物よりも早く高く成長して太陽光をあびて実をつけようとする。



ぼく(140cm)と同じヒメジョオン、ワイルドキャロット、メマツヨイグサ。

道ばたのイヌビエ。田んぼでもイネより早く高くなり実をつける。

地面にふせる!

セイヨウタンポポやブタナ、ヒメジョオン、オオバコなどは、根ぎわから葉を放射状に出し、地面に低く広げる。これをロゼットと言い、茎が地面を這う。

セイヨウタンポポのロゼット

草刈りしても残ることが多く、主根が太くて抜くのも難しい。コニシキソウやカタバミはぼくの庭のつくしやドクダミは食用になるし、ツユクサは友禅染の下絵を描くために使う。役立つざっ草もあるのだ。

地下茎でふえる!

庭のざっ草中で最もやっかいなのがスギナだ。スギナは長い地下茎の節々から芽を出して増える。春にはツクシが胞子を散らしてはんしょくする。少しでも地下茎が残っていれば芽を出し増えるので地獄草とも言われる。

スギナを抜くと、地下茎でつながっていた。

種をとばす!

ノボロギクの綿も

タンポポのように種に綿毛をつけて風でとばすものを、風散布と言う。アメリカオニアザミは大量の綿毛で種をとばしてはんしょく。

ぼくの畑にもたくさん生えていたワイルドキャロットは、北海道によく見られるざっ草だ。愛媛の祖父母はほとんど見ないと言っていた。国道36号の道ばたに生えていたコウリンタンポポやシャグマハギも北海道にたくさん増えてすごく増えている。また、果実がパチンとはじけて種をとばすものを、自動散布と言う。カタバミやメマツヨイグサはこれでよく種をとばす。

ざっ草にもいいところ?

ざっ草は畑のようぶん分をうばい、庭や道の美観をそこねるが、祖父母によると、草ひきすることで土がたがやされるという。調べてみると、ぼくの庭のつくしやドクダミは食用になるし、ツユクサは友禅染の下絵を描くために使う。役立つざっ草もあるのだ。美しい花を咲かせるざっ草もあるので、外来種に注意して楽しみたい。

ざっ草花束(ぼく作)

外来種がはんしょく

庭のざっ草の中でもセイヨウタンポポやブタナ、メマツヨイグサ、ワイルドキャロット、ヒメジョオン、コニシキソウなどは外来種だ。オランダ、ヒメジョオンは北アメリカ原産で、茎から白い液を出す。おうせいに増えて、在来種のコニシキソウはほとんど見かけなくなった。コニシキソウは白い液を出さない。また、かつてはどこにでも生えていたノアザミにかわって、要注意外来種のアメリカオニアザミが急増している。

毒性のある白い液を出すコニシキソウ

とにかくトゲが痛くてさわれない。アメリカオニアザミ

北海道に多いざっ草

ぼくの畑にもたくさんいるようなので、そのうち本州にも広がるかもしれない。

コウリンタンポポ

ワイルドキャロットとマカスジカメムシ

シャグマハギ、小さく赤いエゾコログサのようなもの